

【総会決議】

いのちを奪う戦争ではなく、 いのちを守る社会保障を！

「戦争できる国」づくりを安倍首相は急いでいます。ベトナム戦争やイラク戦争など、アメリカの戦争に日本政府はいちども「NO（あかん）」と言ったことはありません。

安倍内閣は、「地球の裏側までも『わが軍』（自衛隊）がでかけ、アメリカと一緒に戦争できるようにする」危険な法律をつくろうとしています。

日本の侵略戦争によって 300 万人の日本人と 2000 万人のアジアをはじめとする国々の尊い命をうばった第 2 次世界大戦の反省のうえに世界に公約したのが憲法 9 条です。

「軍隊をもたない」「紛争は武力でなく、話し合いで解決する」「戦争をしない」という、世界に誇るものです。この 9 条を破壊するのが「戦争法案」です。

アメリカでは徴兵制は廃止されていますが、「免許が取れる」「大学の学費が免除される」「医療保障がつく」などの誘惑で、貧しい世帯の子どもたちが兵士になり戦場に駆り出されています。格差社会のゆきつく姿です。戦後、看護師は「再び戦争の血で白衣を汚さない」、教師は「再び教え子を戦場に送らない」と誓い合いました。わたしたちは、愛する夫や子ども、かわいい孫たちを戦場に送らないことを宣言します。

「オスプレイや戦車と社会保障」は両立しません。秘密保護法の施行やマイナンバー（国民総背番号）制など戦争政策につながるあらゆる改悪を許さず、社会保障の充実を求めます。

「戦争法案」を廃案にするため、手を取り合って行動することを誓います。

2015 年 6 月 21 日

京都中・右京健康友の会第 29 回定期総会